

H/14, 2, 2D.

気胸事故の1例とその対応について ²⁰⁰²

東京 森田 義之

本症例は肩関節周辺の違和感を訴えて来院した患者である。今回その大円筋を刺鍼したのが原因で起きた気胸事故である。

症例：26歳 男 ダンスインストラクター

初診：平成13年6月某日

主訴：右肩周辺の違和感

現病歴：過度な練習を行うと、一時的に違和感が出現していたが休めば消退していた。しかし2日程前から休んでも違和感に変化しないため、また右肩関節を外転していると痛みが出現するようになり当院に来院した。一般状態は良好。

アルコールは飲まない。

既往歴：特記すべきものなし。

家族歴：特記すべきものなし。

診察所見：肩関節、外転90度、肘関節、屈曲90度にて保持し、時間が経過すると特に強く感じる。環境、疼痛部位、姿勢などから筋疲労が原因であると判断した。トリガーポイント鍼療法検索概念である、トリガーポイントを内包する筋肉を短縮させることによって再現痛を誘発させ、大胸筋、大円筋が原因であることが確認された。

治療・経過：鍼灸治療は痛みの抑制と循環改善を目的に行った。

治療体位は伏臥位で肘関節屈曲、肩関節を外転・外旋。

ステンレス鍼1寸6分—3番(50mm—20号)を10本、大円筋を触診し痛気持ち良い感覚を誘発した部位(図1)に刺鍼、置鍼15分、抜鍼後手技療法を10分間加えた。主訴はこの治療後改善した。

気胸であるが、鍼を抜鍼後は特に変化は無くいつもと同じであった。治療後ダンスホールに戻って練習を行っていた際、歩くと胸が「バグバグ」と音がするようになり、息苦しくなり休んでいたが酷くなってきたため救急車にて某大学病院へ搬送された。レントゲン撮影後直ぐに脱気処理(右前胸部下部からチューブを挿入し胸腔内部の空気を抜いて陰圧に戻す)を行い1週間後退院した。

対応：治療の翌日、インストラクターの所属する支配人が突然訪れた。私は直ぐに「気胸」とわかり、落ち着いて仕事が終わりましたら其方に伺う旨を伝え、お帰りいただいた。事故を起こしたのは土曜日で、日曜日(当院は日曜日も営業)に気胸の知らせを聞き、患者が途切れた際にウーベル保険事務所に連絡を入れたが、誰も出ない。三井海上に連絡を入れたが、担当がウーベル保険事務所ということで、月曜日に連絡してください。と対応。その後、他の先生から相馬先生に連絡をして下さい。と指示があり、

御電話をした後、丁寧なFAXにて指示をいただき一安心した。月曜日になってウーベル保険事務所に連絡を入れると、相馬先生からお話はお聞きしました。必要書類を送り、気胸の原因が鍼治療と医師が認めれば賠償金をお支払致しますとのことであった。病院側の担当医師と連絡が取れ、気胸と鍼治療の因果関係をお聞きしたところ、検査による因果関係はハッキリしないが、治療後ということからも鍼が原因の可能性が高いとのことであった。その後、医師は「原因が鍼だと認めると賠償問題でもめないか？大丈夫ですか？」と心配してくれましたが、認めていただけないと保険が下りません。と言いますと「わかりました。」と苦笑いしていた。

患者に対しては、翌日の月曜日に御見舞いに伺った。その後も時間が出来れば御見舞いに伺った。その後患者との関係は以前と同じである。

考察：鍼灸における気胸は胸腔内にハリが進入した時に生じるとされているが、私は気胸を引起したのは2例目で、我々トリガーポイント鍼療法は筋肉を主体に考えて治療を行うので、解剖学的な知識はあるつもりである。肋間筋は繊維組織が多いことが判っているので、鍼の刺入時には他の部分より抵抗感が強くなるのだから、今回それは無かった。つまり明らかに胸腔内に鍼が進入していなくても気胸が誘発される可能性が考えられる。当然、肺尖付近への危険な部位への刺鍼は行っていない。今回、患者「5年間先生の治療を受けているけど、初めて感じた感覚でした。肋骨の脇を通して胸の前でチカチカとする感覚」だという。実は私も気胸経験者で同じような感覚を感じたことを覚えている。また研究生時代に内科の先生が「私も注射で間違えて胸腔内に刺してしまうことがあるが、気胸にはならないのに何故注射針より細い鍼灸針で気胸が誘発されるのか理解できない。」と言っていた。また、ある論文では、背部から鍼を打っているにも関わらず前胸部に穴が見つかったというケースの報告もある。つまり胸腔内に針を刺さなくても気胸が起こる可能性を考えることができるのである。自然気胸の場合もあるかもしれない。

私はこの事故で患者と保険会社(ウーベル保険事務所)から板挟み状態であった。(図2)これで本当に良いのだろうか？自分の治療に専念できず、私の代わりに動いてくれるのが保険屋の仕事ではないのか？この事故処理の最後は保険屋と被害者に直接話をさせた。その後被害者は私にこの保険屋やめた方が良いでしょう。態度が悪い。偉そうです。と言っていた。保険も自由化を迎えリスクマネジメントに対する対応をもっと真剣に取り組んでいくべきでないだろうか？

図 1

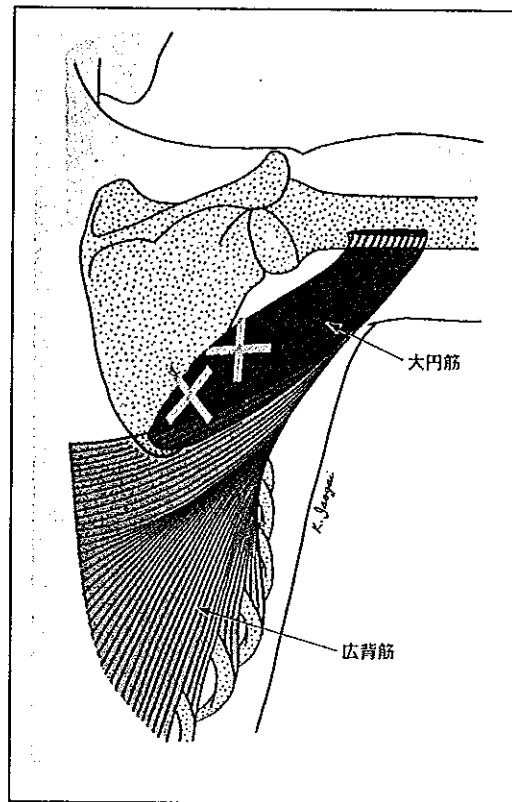


図 2

